

熊本県立南稜高等学校 令和2年度(2020年度)学校評価計画表

1 学校教育目標
『学校理念』 球磨の地に「人材の泉を掘る」
『教育スローガン』 人間力を高め 一隅を照らす人づくり 南稜魂で世界へ羽ばたけ 教育とは流水に文字を書くようにはかない業である。しかし、それを岩壁に刻むような真剣さで取り組まなければならない。教育の基盤はあくまでも、教師と生徒との信頼関係である。教師が誠意と熱意を持って教育に真剣に打ち込むときに、生徒の心は動かされ、魂を呼びさまし、そこに信頼感が生まれる。 また、地域の人々に愛され、期待され、生徒が夢や目標を持ち、夢に挑戦することで、自分に対する自信と他者に対する思いやりの心を育成する学校づくりに努める。
『教育理念』 時を守り 場を清め 礼を正す

2 本年度の重点目標
<p>① 募集定員の確保 ホームページやマスコミを活用した特色ある本校学習活動の周知で定員確保を図る。</p> <p>② わかる授業の実践 南稜スタンダードによる授業の工夫と改善を積み重ね、「わかる授業」「もっと学びたくなる授業」の展開を心がけるとともに学習習慣の定着を図る。</p> <p>③ 自尊感情や自己肯定感の涵養 学校行事や部活動、南稜スタンダードによる授業展開などとおして、生徒一人ひとりが自分自身に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲とコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>④ 基本的生活習慣の確立 個々の生活の乱れに起因する要因を具体的に把握し、家庭との緊密な連携をとるとともに、生徒との信頼関係を築く。また、学級経営においてもお互いに声を掛け合える集団に高めることで基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>⑤ 教育相談体制の充実 中途退学等の進路変更者数の減少を目指し、学力の定着、定期的な面談の実施、自治体や関係機関との連携強化に取り組む。また、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを起こさない雰囲気づくりやいじめ通報アプリの活用等に取り組む。また、いじめ件数0件を目指す。</p> <p>⑥ 働き方改革の推進 勤務時間を意識した働き方の推進や会議や研修、行事の精選、職場環境の改善等に取り組む。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	募集定員の確保	入学者数の確保	○全学科、定員 80%以上の受検者確保と入学者数 170人以上	○南稜応援隊によるPR活動を推進する ○ホームページやマスコミ等を活用して本校教育活動を周知する ○中学生保護者向け学校説明会を充実させる ○体験入学を充実させる	C	○具体的な方策に示した活動のほかに学校新聞の回覧板での配布やPR動画の作成などに取組んだ。 ○HP1 日平均閲覧数約 700 件、マスコミ掲載約 70 件(12 月末)であった。 ○中学生保護者向け説明会は今年度も対話型で行い満足度 100%であった。 ○志願者数は 127 名と昨年を下回る結果となった。
	業務の改善	実効性のある業務改善の実践	○「働き方改革を意識した業務遂行ができています」と回答する職員 80%以上	○部活動指針に沿った部活動運営を徹底するとともに部活動数を見直す ○ノ残業デーでの定時退勤を徹底させる ○整理整頓日(クリーンデー)を設定する ○アンケートはFormsやマーケットを活用し効率化を図る	B	○部活動指針に沿った部活動運営やノ残業デー、クリーンデー、アンケートの効率化などに取組むことができた。しかし、部活動数を見直すことはできていない。 ○職員アンケートでは「南稜高校は働き方改革が計画的に推進されている」60%、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」75%で目標を下回った。
	働き方改革の推進	働き方改革の実践	○時間外勤務の縮減(前年度比超過勤務平均時間の10%削減)	○「働き方改革の推進について～できることからまず1つ～」に沿った改革を推進する ○主任主事等を中心に各部署における働き方改革を推進する	A	○月平均時間外勤務時間は45時間程度で前年度より18%削減することができた。また、80時間を超える職員が平均6名で、前年度より7名減少した。 ○「働き方改革の推進について～できることからまず1つ～」に沿った改革をほぼ推進することができた。

学力向上	わかる授業の実践	授業改善	○生徒の85%以上が「授業が理解できた」とする「わかる授業」の推進	○公開授業週間や授業研さんの機会を通して、南稜スタダートの観点から各教科及び学科内で授業内容の振り返りを図る ○職員への南稜スタダートの浸透及びその定着を図る機会を設ける	A	○授業で「わかった」「できた」という達成感があると回答した生徒が約85%である。今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタダート」の理念に基づいた授業実践を継続していく。
	学習習慣	欠席防止	○8クラスで年間出席率98%以上	○各部と出欠状況の共有を図る ○担任や学年団を中心とした家庭と連携した登校支援を充実させる	B	○14クラス中8クラスが98%以上を達成し、このうち99%以上は4クラスであった。学校全体としては97.9%(12月末)。引き続き学習意欲の更なる喚起、及び不登校傾向生徒への継続的な対応を実施していく。
キャリア教育(進路指導)	進学・就職支援	進路目標の達成	○進学・就職とも、志望先への合格・内定100%	○課外授業や模試等を活用した判断材料の収集と情報提供を促進させる ○希望調査と面談による適正な選択を支援する	B	○多くの生徒は進路活動に積極的に取り組み、進路目標を達成させた。 ○内定率100%を達成することができた
	定着指導	就業の継続	○早期離職率25%以下	○3学年部と連携した事業所訪問の機会を利用し、定着指導を行う ○社会接続支援として3年生に早期離職防止のための講話を行う	B	○キャリアサポーター調査による管内事業所での早期離職率は10.1%。今年3月卒業生の県外就職者の離職が多かった。今後は関係機関とよりいっそう連携を図りながら、内定後の社会接続支援の取組を充実させていきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	自転車二重ロック率の向上	○全学年の二重ロック率85%以上	○交通委員や室長による呼びかけを点検前に行う ○二重ロックができていない生徒へ個別指導を行う	D	○二重ロック率は平均23%と昨年の30%を下回ってしまった。盗難防止や防犯意識の向上のためにも交通委員会を取り込んだ組織的な対策が必要である。
	自尊感情や自己肯定感の涵養	自尊感情の向上	○「自分のことが大切な存在と思う」と答えられる生徒60%以上	○全校集会での自尊感情向上講話や三部会による啓発活動を推進する ○学校行事における生徒の主体的活動を推進する	B	○「自分のことが好き」と回答した生徒は42%と目標には到達できなかったが昨年の38%は超えることができた。今後も引き続き三部会の活動を活発にできるように取組をしたい。
人権教育の推進	人権教育・適応指導	人権教育の充実	○自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度の定着	○対人関係の築き方や人との関わり方などをLHRや授業を通して伝えていく ○自己理解と他者理解をできることを目指し、自己肯定感を高める	B	○年間指導計画に基づき、各学年の担当者が立案し、LHRにて学習することができた。 ○今年度の社会情勢に伴う休校などで十分な取り組みができなかった。
	特別支援教育体制の充実	個別的教育支援計画と指導計画の作成と引き継ぎ	○診断がある生徒の個別的教育支援計画、指導計画の評価記入率80%	○教育相談部による学期末ごとの評価の記入の呼びかけと確認を行う ○特別支援学校の巡回相談を活用し、目標の設定や評価のアドバイスをもらう	C	○診断がある生徒については、個別的教育支援計画、指導計画を全て作成することができた。 ○保護者との連携については家庭訪問の機会を捉えて行う予定であったが、新型コロナの影響も十分行えていない。
	命を大切にすることを育む指導	予防的教育相談の実施	○担任による定期面談を年3回実施 ○ピアサポート研修、GRIP研修を年3回実施	○学期に1回の担任による面談を推進し、気になる生徒へのサポートを行う ○生徒主体のピアサポート研修とGRIP研修を実施し、教室内で支え合える体制を充実させる	B	○面談については、年間行事に面談週間として設定してもらったほか、豪雨災害後に担任・副担任で面談を実施し生徒のサポートにつなげた。 ○ピアサポート及びGRIP研修については、臨時休校でできなかった回があったが昨年と同様にLHRで生徒を主体とした授業を実施することができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	相手の気持ちを考える心の育成	○3つの目(自分の目、相手の目、周囲からの目)で考える言動ができる	○生徒会等を中心としたいじめ防止啓発活動を実施する ○SOSや自分の気持ちを伝える力を定着させる	C	○生徒会を中心とした相手の気持ちを考えた発言の促すような啓発活動の場を充実させるには至らなかった。 ○担任や相談できる職員に自分の気持ちを伝えている生徒が増えている傾向が見られる。
地域連携(コミュニティスクールなど)	学校運営協議会の開催	総合型コミュニティ・スクールへの移行	○家庭、地域との連携・協力した課題解決や改善 ○地域に開かれ信頼される学校づく	○学校運営方針の周知と共有を図る ○学校の課題や情報等の共有を図る ○学校の課題の解決に向	A	○2回の運営協議会とも新型コロナウィルス感染症の影響で書面協議となったが学校運営方針の周知や学校の課題の解決に向けた意見交換ができた。また、提出された意見・提案事項の中で具体的な

			り	けた協議に取り組む		対応につながったものが複数あった。
	地域連携	地域とともにある学校づくりの実践	○地域連携や地域活性化に関する活動への参加生徒70%以上	○地域イベントへの積極的参加と地域と連携した研究活動を推進する ○各学科で開放講座を実施する	B	○コロナ禍で地域活性化に関する活動に参加ができず、目標達成までには至らなかった。 ○コロナ禍で開放講座が実施できなかった。
特色ある学校作り	専門教育の充実	南稜スカンター農場版の実践	○「専門教科に興味・関心がある」「学習内容を理解している」生徒80%以上	○基礎、基本を押さえた授業を実践する ○全教科でポートフォリオ評価を行う	B	○昨年同様約80%が専門教科を積極的に学び理解を深めていると回答があった。 ○ポートフォリオ評価は、全科目での実施までには至らなかった。
	地域の素材や人材の活用	地域資源の活用	○「郷土に誇りを持っている」生徒85%以上 ○農業系学科・コースでの地域資源活用率100%	○地域特産物や人材を活用した授業展開による郷土愛の醸成及び新たな地域資源活用方法を提案する	A	○郷土に誇りを持っている生徒85%以上で郷土愛は醸成されている。 ○農特産物等地域資源を活用した学習活動はほぼ100%であった。今後は地域と連携したプロジェクト学習の充実が求められる。

4 学校関係者評価

- 全体的に学校も生徒たちも落ち着きを感じられる。あいさつも大部分良くしてくれる。特に運動部が活力を与えているような気がする。
- 人吉球磨で最も伝統と歴史を誇る高校であることを自覚し、生徒が学んで良かったと思えるのはもちろん、先生方も南稜高校で教えて良かったと思える学校にしてほしい。
- 「教育理念」に「地元の中学生在が行きたいと思う学校」を加えてほしい。
- 広報の充実拡大による学校PRに力を入れてほしい。
- 「南稜魂で世界に羽ばたけ」、そのような人が出てきたら後輩はもちろん学校も地域も活気づくと思います。しかし、世界でなくとも少しでも高く羽ばたけたら嬉しいと思う。
- 夢や目標を持って挑戦することに消極的で自分に対する自信がない生徒は、言葉を飲み込んでしまうところがある。コミュニケーション能力の向上を図る指導を期待している。
- 本校入学後の進路変更をなくす。
- 農林業をはじめ、福祉などあらゆる産業につながる教育活動が展開されており、当地域における少子高齢化の流れを少しでも打開するため、地元産業を活性化すべく、地元への就職・就農の働きかけなどができればと感じた。
- 義務教育の段階で生活習慣はある程度確立するものと考えている。すでに貴校でも取組まれているかと思うが、スクールソーシャルワーカー等による福祉的側面で本人、家庭を支援し、学業に専念できる環境をつくることも先生方の働き方改革の推進に繋がるものだと感じた。
- 今年度はコロナウイルス感染症の影響で様々な教育活動に影響が出ていると思う。特に3年生は進路決定に向けて不安な気持ちが少なからずあると思うので十分な進路相談・サポートをお願いしたい。
- 神殿原農場への移動の際は、もっと元気に明るく挨拶すると良いと思う。
- 新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休校措置で様々な対応が必要とされている。また、教育活動再開後も様々な変更等を余儀なくせざるを得ない場面が多々あると思うが、「新しい生活様式」のもと貴校の教育活動の充実と発展を祈念している。
- 体験活動による自己肯定感の向上が学校の特徴だと思う。
- 借地により規模拡大を行う経営が多いが、保有資産が乏しく、担保不足により資金調達面で支障を来しており、経営改善を図る上で阻害要因となっている。民間金融機関が有する経営に有益な資金調達等の情報を得る講座を提供することで一層効果的な農業経営者の育成支援につながると考えられる。また、将来の農業経営において民間金融機関からの円滑な融資が受けられるためにも連携した教育活動を展開することは有意義だと考える。
- ほぼ毎日ホームページを見ている。昔とは違いプロの指導による授業や実際に現場に出向く機会も多くあり、生徒たちも幸せだと思ふ。しかし、それが当たり前と思っているのかも知れない。これは幸せなことだと感謝する心が芽生えれば、もっと真剣に取り組むことができるだろうし、向上心も出て技術や知識もぐんぐん増えるだろうと思う。学校案内や新聞を見るとそのような向上心溢れる生徒さんも見られる。
- 貴校の特色ある「球磨地域学」や「球磨農林学」などの取組みをとおして、例えば球磨・人吉地域の課題となっているテーマを各学科において学び卒業後に一部の生徒たちがUターン等により、地元で生かす場面ができることで、郷土愛に満ちた人材育成及び確保が期待できるのではないかと考えた。
- 生徒の皆さんが丹精込めてつくられた製品を今後も地域イベントで積極的に販売していただきたい。販売を通じて南稜生の活動の魅力を身近に知ってもらえると思う。
- ホームページを見る機会がない方でも新聞で活動を知る方は多いと思う。そこで地域の方々も参加できるイベントや公開講座などは事前告知として新聞等で広く開催を周知されると興味を持たれる方もいると思う。
- 地域連携においては、私たち地域住民の参加も積極的にお願いしたい。情操の面からも環境美化活動、地域ボランティア活動など一緒にできる機会があればと思う。
- いじめや不登校、退学等がないのが一番だが、特別支援や教育相談などを重視し、一人一人を大切にされた教育活動をお願いしたい。
- 学校評価に挨拶ができる子どもが多くなればとあったが、私もそう思う。たまに学校へ行くと、すれ違うのに挨拶をしない子がいる。お互いが見えるのなら生徒から挨拶をしてくれるとこちらは嬉しいと感じる。しかし、挨拶は小さい頃から家で言えていなければならないことではある。
- 先生方の時間外労働が少しでも減りご家族とくつろげる時間が増えれば良いと思う。
- 早期離職は時々聞きますが、「1ヶ月辞めた」などと聞くとびっくりする。
- 「特色ある学校作り」の具体的方策の中で、全教科でポートフォリオ評価を行うとあり、生徒たちが持っている人間力による肯定的な評価を受けることで、充実した豊かな学校生活により、コミュニケーション能力も高まっていくと感じた。
- 2重ロックの徹底は盗難被害を防止するだけでなく、防犯意識の向上にも繋がるので、今後も継続をお願いしたい。
- SNS等の普及により全国的にいじめや少年が犯罪に巻き込まれる事件等が発生している。警察では非行防止教室等を通じ

- て少年の健全育成を行っているので、様々な面で協力させていただければと考えている。
- 地域イベントに参加協力いただきありがたい。南稜生の真摯な姿勢に感銘を受けた。参加された住民の方々も南稜生の説明に喜んでおられた。また、今後、貴校で展開したい地域連携の活動があれば要望等をお伝え願いたい。
 - 南稜生が登下校する際は努めて挨拶するようにしているが、無言で通られることも多く寂しさを感じている。生活習慣として意識していただきたい。
 - 防災教育の取組みは是非今後も継続して取組んでいただきたい。社会人になってからもこの取組みが個々の防災活動に生きていると思う。あさぎり町には防災士会もあるし、食生活改善推進員ではビニール袋に食材を入れ熱湯で調理する「パッパッパ」みたいな取組みも地域に出向き講習されている。災害時の炊き出しなどにも活用できるので、訓練の1つの案として紹介したい。
 - 学校の教育活動がわかりにくい点があるので「学校便り」等を近隣の地域へ回覧で回してもらえれば理解も深まると思う。
 - 学校関係者評価の課題として記入してあったスマホを扱いながらの自転車乗りや歩行をよく見かける。道路交通法も含め指導を徹底してもらいたい。
 - 伝統ある県立南稜高校の益々の発展を祈念しています。
 - 小学校の児童との交流事業等、大変お世話になっている。今後もよろしく願いたい。
 - 行事の際には駐車場の確保をお願いしたい。
 - 資格取得を推進してほしい。
 - 学校案内パンフレットは、私もまた高校生になりたいと思わせる楽しい内容である。1ページの集合写真は、先生方も肩を組んで仲が良さそうだなと感じた。各科の毎に写真が多いのも学習活動がよく分ると思う。
 - 学校パンフレットで福祉コースの進路先の例が他の学科と比べ簡単なことが気になった。
 - これからも新聞やホームページで南稜のことを発信してほしい。
 - あさぎり中学校の2年生を対象に農業研究クラブが立ち上げられた。今後、地元中学生と南稜高校との活動など連繋が図られることで、地元高校への進学が期待される。
 - あさぎり駅の一角があさぎり町デマンドタクシーの待機場所に指定されている。時間にもよるが車を待つ南稜生とデマンドタクシーを待つ住民の方とが重なる時があり、待機場所に座ることができないといった利用者の声も聞きく。外での待機は辛いかとは思いますが譲り合えたらと思った。
 - 高校生が小学生の先生として長期休業中の宿題の手伝いなどに協力してもらえないかと模索している。地域連携を考えるときに気軽に相談できる窓口をご紹介いただきたい。
 - 新聞掲載や町内回覧などの広報活動は、南稜高校の特色が打ち出され、良いアピールになっている。
 - 回覧板をとおして生徒たちの頑張りの活動に、地域の方々も感動されたりびっくりされたのではないかと。また、中学生への良いアピールになったと思う。
 - 地区の回覧で南稜生の活発な活動の様子を拝見している。そのせいか地元新聞などで南稜生の活躍を目にすると我がごとのように嬉しい。
 - 野球部やうし部の活躍は、地元住民目線から見ても南稜高校に対する愛着が高まると思った。
 - 部活動等の活躍や進路実績など、先生方の熱心な指導が窺える。
 - コロナや豪雨災害など本当に難しい一年の中、例年と変わらないほどの活躍を心から誇りに思う。
 - コロナ禍ではあったが、職員・生徒・保護者・地域・他校種との連携による取組みが随所になされている。
 - コロナや豪雨災害など大変な1年でしたが、貴校生たちの文化面、スポーツ面での活躍が地域の方々や保護者に元気と勇気を与えてくれた。
 - 教育活動の様子を地域回覧板で配布いただき住民からはより身近に感じられると大変好評だった。
 - 先の見通しが不安定な中、生徒の夢をこわすことなく未来志向に沿った指導をお願いしたい。
 - コロナ禍や豪雨災害で従来の教育活動が大きく制限される中、生徒の学校生活の充実にご苦労いただいたことに敬意を表したい。
 - 学校評価アンケートの集計結果からも、部活動数を検討する必要性を感じました。
 - コロナ禍で求人への悪化も予想される中、学校と生徒、保護者とのつながりまで希薄になると、不安感が増すのではないかと。
 - ひとり親家庭やコロナ禍で職を失った家庭から生活の困窮や子どもの進学、就職の際の資金の貸付先について相談がある。学校側からも公的な経済支援の情報発信をお願いしたい。
 - 防災避難訓練では、自主避難が困難な生徒がいる状況も想定し、災害時の個別避難計画をたててみるのも一つではないかと。
 - 毎日、校門前を通るが、校内や道路端の掃除が行き届き、とても気持ちいい。
 - 学校教育目標からの6つの重点目標について適切に評価されており、本年度の成果と次年度につながる課題が明確になっている。
 - 働き方改革の推進においては、コロナや豪雨災害対応などで大変な1年だったと思うが、指針に挙げられている「できることからまず1つ」を実践目標として、生徒たちに寄り添った教育活動の構築に取り組まれることを期待している。
 - 校内環境については、保護者と異なり生徒や先生の評価が低かった。中で生活すると老朽化や汚い所も見えてくると思われる。施設等の更新が進み、快適な環境で学校生活を送れるようになれば生徒の学習意欲も増すと感じた。
 - 学校側としては仕方ないことだとは思いますが、目標にされているパーセント値が高く、評価の判断が下がってしまうのではないかと感じた。
 - 郷土に誇りを持つ生徒の多さは他学校では考えられない。日頃から地域とのつながりを大切にしながら教育されている結果が、生徒の心にしっかり根付いている感じた。
 - 運営協議会委員の授業や実習への参観、意見交換などを計画してもらえればより具体的な評価ができると思う。
 - 正門横の看板に古いものが見られる。部活動やコンクールの看板だけでなくアピール度の高い学校宣伝用の看板を工夫してみてもどうか。
 - 入学者数の確保に向けたPR活動については高校側の問題だけではないと思う。中学校側もその魅力をしっかりと伝えながら、それぞれの進路実現に寄与していかなければならない。
 - 業務改善、働き方改革については難しいところがまだまだ学校現場にはあると思うがコロナ禍や災害の中での工夫・変更が今後のヒントになるのではないかと。
 - いじめの未然防止と早期発見については積極的な校内支援体制づくりの必要性を感じている。
 - 生徒一人一人の教育ニーズを、より具体的に支援するためにも、義務教育機関との情報共有は重要である。また、教職員間の共通理解を図るため、計画や達成状況の定期的な確認が必要である。
 - 今年度から取り組まれているあさぎり中学校の2年生を対象とした「農業体験ラボ」が進路選択に生かされ、南稜高校への進学につながっていくことを期待している。
 - 社会に出ればいかに学校で甘えていた事が分かると思う。自分に厳しく頑張りたい。自分に厳しく頑張りたい。
 - 机上だけでなく様々な経験をとおしてしっかりと足元をそして前を向いて進んで行ける生徒が育つ事が大切だと思う。今年度の苦難を生かしていける人間に成長してもらいたい。

- 神殿原農場に行く生徒たちのあいさつが良くて気持ちが良い。全体的にあいさつが良くなったと感じる。運動部活動生が特に元気良い。
- 正門前通りにおいてダラダラとしている生徒をよく見かける。車の方も戸惑いを感じるうえ、場所柄に目立つので指導をお願いしたい。
- 地元で高校が存在するだけでも大変嬉しく感じている。地域に根ざした高校、愛される高校を目指して頑張ってもらいたい。
- 「農業体験ラボ」での連携ができればと思う。また、その活動を他の中学校にもPRできればと思う。
- 今後も地域連携の推進を願っている。
- 南稜高校に家族連れで行った際に、ポニーに乗せていただきとても嬉しかったそうです。こういった触れ合いが地域に愛される南稜高校につながると思った。

5 総合評価

本年度の学校教育目標から5つの重点目標を掲げた。各重点目標の評価は次のとおりである。

① 募集定員の確保

新型コロナウイルス感染症の影響によりPR活動に制約がある中、従来のPR活動のほかに学校新聞の回覧板での配布やPR動画の作成などに取組んだ。HP1日平均閲覧数は昨年度より減少はしたものの約700件、マスコミ掲載も約70件(12月末)であった。また、中学生保護者向け学校説明会は今年度も対話型で行い満足度100%であった。

② わかる授業の実践

新型コロナウイルス感染症対策を行った公開授業の開催や授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの浸透及びその定着を図る機会を設けた。「南稜スタンダードに従った分かる授業が展開されている」と回答した職員は87.2%であり、南稜スタンダードを意識した授業が展開されている。その結果、生徒からは「授業で『わかった』『できた』という達成感がある」84.9%、「授業中の指示や説明はわかりやすい」89.9%、「板書は丁寧で読みやすい」89.5%、「わかるまで教えてくれる」88.2%と昨年度を上回る高い評価を得た。しかし、保護者からも「南稜高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」92.3%、「私の子どもは高校生活をとおして成長していると実感している」89.3%、「教科・科目は、生徒の興味・関心や進路希望をかなえるものになっている」78.76%と高い評価を得たが「南稜高校に入学して私の子どもの成績(学力)は向上した」は63.0%と低い結果となった。

今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。

③ 自尊感情や自己肯定感の涵養

本校生は自尊感情や自己肯定感が低い傾向にあり、学校行事や部活動、南稜スタンダードによる授業展開などをとおして、生徒一人ひとりが自分自身に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲と能力の向上に努めた結果、生徒アンケートで「自分のことが好き」と回答した生徒は、昨年の38%を超えたが42%と低い状況である。また、「私は高校生活をとおして成長していると実感している」81.8%、「南稜高校に通うことは、自分の将来にとって意義があると感じている」84.9%、「南稜高校での授業は私の夢や進路を叶えるものになっている」74.7%、「南稜高校の体育大会や文化祭などの学校行事は、楽しく充実している」83.2%と高い評価であったが「私は学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している」、69.3%と低い傾向が見られた。さらに保護者のアンケートでは、「私の子どもは高校生活をとおして成長していると実感している」89.3%、「南稜高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」92.3%、「南稜高校での授業は私の子どもの夢や進路を叶えるものになっている」78.7%、「南稜高校の体育大会や文化祭などの学校行事は、楽しく充実している」78.2%、「私の子どもは部活動や学校行事、ボランティア活動などに積極的に参加している」76.4%と高評を得た。今後も引き続き、三部会活動を活発にできるよう取組んでいきたい。

④ 基本的生活習慣の確立

個々の生活の乱れに起因する要因を具体的に把握し、家庭との緊密な連携や生徒との信頼関係を築くとともに、学級経営においてもお互いに声を掛け合える集団に高めることで基本的生活習慣の確立に取り組んだ。

アンケートの結果、本校は落ち着いたよい学校であると回答したのは保護者で86.8%と高かったのに対し、生徒で53.3%、職員で60.4%と低い結果となった。本校の校則等に対する理解度に関する質問については、生徒が75.4%、保護者が85.7%、職員が75.0%と概ね理解されているようである。また、本校の先生は問題行動や服装の乱れなどを見逃さず適切に指導してくれるの質問に対しても生徒が79.7%、保護者が74.3%、職員86.2%と高い評価となった。しかし、保護者アンケートで、子どもに関する悩みや心配事を学校・先生と共有できているの質問については60.9%と低い傾向が見られた。

今年度の学校評価での基本的生活習慣の確立の具体的な目標、具体的方策に挙げた自転車二重ロック率の向上については23%と非常に低い状況が続いている。盗難防止や防犯意識の向上のためにも交通委員会を取り込んだ組織的な対策が必要である。また、大半の生徒では基本的生活習慣が確立されているが、一部の生徒にルールマナーが守れない状況や落ち着きに欠ける状況が見られる。グローバル化で日本人のマナーの良さが高く評価されている中、さらに規範意識が高く節度ある言動ができる生徒の育成に取り組んでいきたい。

7月の豪雨災害では、「地域の復旧のために、できることをしたい」という想いを行動に移した南稜生の姿が至る所で見られ、被災した皆さんに多くの勇気と元気を与えることができた。地域の復旧復興に即戦力として活躍する生徒たちの姿に、建学の精神「球磨の地に人材の泉を掘る」が根付いていることを確信することができた。また、主体的なボランティア活動に取り組んだ163名が、令和2年度熊本県公立学校善行児童生徒表彰特別賞を受賞した。

⑤ 教育相談体制の充実

中途退学等の進路変更者数の減少を目指し、学力の定着、定期的な面談の実施、自治体や関係機関との連携に取り組んだほか、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを起さない雰囲気づくりやいじめ通報アプリの活用等に取り組む、いじめ件数0件を目指した。

転退学者数については、2学期末時点で昨年度の9人から3人と減少した。また、いじめ事案件数は0件であった。アンケートにおいては、個性やニーズに合った指導や支援に関する質問で生徒が74.4%、職員が85.4%、悩みや相談に親身になって応じてくれる(いる)の質問で生徒が77.6%、職員が89.6%と高い結果となったが、保護者では71.9%、60.9%と低い傾向が見られた。新型コロナウイルス感染症の感染防止で家庭訪問も制限されるなどの影響もあったが、家庭との連携に課題が見られた。

また、診断がある生徒については、個別の教育支援計画、指導計画を全て作成することができたほか、面談についても年間行事に面談週間を設定したことで定期的な実施することができた。ピアサポート研修、GRIP研修については、実施できなかった回もあったが、昨年同様に生徒が主体となってLHRを進めることができた。

⑥ 働き方改革の推進

「働き方改革の推進について～できることからまず1つ～」で挙げた部活動指針に沿った部活動運営やノ残業デー・クリーンデーの開催、Forms等を活用したアンケートの効率化などに取組むことができたが、部活動数を見直すことはできていない。職員アンケートでは「南稜高校は働き方改革が計画的に推進されている」60%、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」75%で目標を下回った。月平均時間外勤務時間は50時間程度で前年度より17%削減することができた。また80に沿った改革をほぼ推進することができた。

次年度は、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、本校の実態に応じた業務改善及び教職員の意識改革を進めていく。
なお、自己評価総括表でC・D評価の項目に関しては、次年度改善に向けて取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

次に挙げる本年度、十分には達成できなかった項目などの課題改善に重点的に取り組みたい。

① 募集定員の確保

再編統合以降も定員数の確保には至っていない。魅力ある学校づくりを推進するとともに、ホームページやマスコミ等を活用し、本校の特色ある学習活動を周知し、定員確保に努めていく。

② 基本的な生活習慣の確立

交通委員会を取り込んだ自転車二重ロックの徹底や日常のきめ細かな指導と対話、そして家庭との連携を通して基本的な生活習慣を確立させ、欠席・遅刻や問題行動を防止する。

③ 特別支援教育体制の充実

個別の教育支援計画や指導計画の活用を推進し、生徒支援会議や教科担当者会議において具体的な手立てを提示していく。また、学期に面談週間を設けるとともに7月の豪雨災害に対するアバソーラー反応への適切な対応と支援を行う。

④ いじめの未然防止と早期発見

学校行事や部活動、南校スタンダードによる授業展開、また、異年齢集団との活動を通して自己有用感を醸成し、見識ある行動のとれる生徒を育成する。また、生徒会等を中心にしたいじめ防止啓発活動をとおして3つの目（自分の目、相手の目、周囲からの目）で自ら考え、行動できる能力を育成する。

⑤ 働き方改革の推進

本校の指針である「働き方改革の推進について～できることからまず1つ～」を推進し、職場環境の改善に努める。